

1 号 消 火 栓 の 部 操 作 要 領 (令 和 8 年 度)

実 施 項 目	指 揮 者	1 番 員	2 番 員	備 考
事 前 準 備				
資器材準備	① 受付でプラカードを受領し、ビブスは、次隊待機位置で係員から 4 名分(防火管理者分も含む)受領し、装着する。 ② 次回待機位置にいる次の実施隊は、係員の指示により、指定された屋内消火栓に自己隊のホース・筒先を準備する。 ③ 指揮者と1番員は、待機位置で係員からトランシーバー(以下「無線」という)を各自受領し、装着する。 ④ 自己隊のプラカードをプラカード設置場所★ ⁰ に立てる。 ⑤ 待機位置(机)★ ¹ に指揮者、1番員及び2番員の各ヘルメットと手袋、無線機(指揮者・1番員のみ)を設定する。 ⑥ 全員の準備(服装含む)が完了したら、事務室前の整列位置★ ² で自主整頓し、指揮者の「 整列休め 」の号令で待機する。			※ビブスは、自己隊で用意したものも使用可能とします。自己隊のビブスを使用する場合は、待機位置に来る前に装着しておいてください。
審 査 開 始				
人員確認 待機位置に移動	(紹介アナウンス後) 事務室前の整列位置★ ² から列を外れ、整列している1・2番員の前に移動し、指揮者が気をつけの状態から、1・2番員に対し、「 気をつけ 」、「 番号 」の号令後「 待機位置につけ 」と呼称し、1・2番員の「よし」の呼称で、待機位置★ ¹ へ移動し、椅子に着席する。	指揮者の号令まで、事務室前の整列位置★ ² に 整列休めの姿勢で待機する。 指揮者の「気をつけ」の号令で気をつけをし、「番号」の号令により1・2番員が順番に「 1 」、「 2 」と呼称する。 指揮者の「待機位置につけ」の号令に「 よし 」と呼称し、それぞれの待機位置★ ¹ に移動し、椅子に着席する。		※整列位置に整列後、本部テントより、出場隊の紹介アナウンスが流れます。
開始報告	指揮者は隊員全員が着席し、準備が完了した時点で、着席のまま「 準備よし 」と呼称する。係員が赤旗を揚げたら、指揮者は起立・拳手し、「 〇〇自衛消防隊準備完了 」と報告し着席する。	着席のまま待機		※指揮者の「 準備よし 」と呼称後、係員が赤旗を揚げます。
地 震 発 生				
地震発生	緊急地震速報が流れたら、指揮者が起立後、1・2番員も起立し、「 地震発生、身の安全を図れ。 」と1,2番員に対して下命し、指揮者自身も机の下にもぐり、身の安全を図る。 係員の「地震が収まりました。」の合図で、その場に立ち上がり、1・2番員が立ち上がるのを目視したら、「 異常はないか？ 」と確認する。 2番員の報告後に、「 余震に備えて、ヘルメットを着装せよ。 」と下命する。 「 ヘルメット着装 」と呼称し、ヘルメットを被ったら「 ヘルメットよし 」と呼称後、隊員の着装を確認して着席する。	緊急地震速報が流れたら、指揮者が起立後、1・2番員も起立し、指揮者の「地震発生、身の安全を図れ。」の下命後、「 よし 」と呼称し、机の下にもぐり、身の安全を図る。 係員の「地震が収まりました。」の合図で、その場に立ち上がる。 指揮者の呼び掛けに対し、「 1番員異常なし 」、「 2番員異常なし 」と報告する。 指揮者の下命に対して、それぞれ「 よし 」と呼称する。 「 ヘルメット着装 」と呼称し、ヘルメットを被ったら「 ヘルメットよし 」と呼称して着席する。		※緊急地震速報の後に地震の擬音が流れます。 全隊員が机の下で身を守る態勢がとれたことを確認できたら、係員が「 地震が収まりました。 」と合図します。 ※号令・下命に対する応答呼称の「よし」は、「よし」又は「了解」のどちらでも可とします。(以下共通)
火 災 発 生 (自衛消防隊 初期活動開始)				
自火報発報 待機指示	ベル鳴動後、起立し「 自火報^注発報 」と呼称する。 1・2番員に対し「 次の放送を待て 」と下命する。	ベルが鳴動し、指揮者が「自火報発報」と呼称したら、「 自火報^注発報 」と復唱・起立する。 指揮者の下命に対し、「 よし 」と呼称する。		※指揮者の自火報発報の合図から全体タイムの測定開始 注 自火報＝自動火災報知設備 ※全隊員がヘルメットを 着装 して着席後、係員がベルを鳴動します。
手袋着装	係員が「こちらは防災センターです。ただいま5階西側で自動火災報知設備が作動しました。現在確認中です。次の放送をお待ちください。」と案内放送を流し始めたら、指揮者・1番員は、「 手袋着装 」と呼称しながら手袋の着装を始める。 (放送を受報後)指揮者は、「 1・2番員は5階西側の確認に向かえ。指揮者も後から向かう。 」と下命する(指揮者は、手袋を着装したまま下命し、正対は不要)。1・2番員は、「 了解 」と呼称する。 手袋着装後、「 手袋よし 」と各自呼称する。			※手袋着装は立った状態で行います。 ※防災センター(係員)が「 こちらは防災センターです。ただいま5階西側で自動火災報知設備が作動しました。現在確認中です。次の放送をお待ちください。 」と案内放送を1回行います。
案内拡声	事務室前(テントから約1mの位置付近)で拡声器を使用し、「 自衛消防隊です。ただいま自動火災報知設備が作動しました。現在確認中です。次の案内をお待ちください。 」と在館者に対し、案内を 2 回実施する。	1番員は、事務室の消火器を持ち「 消火器よし 」と呼称した後、2番員とともに 停止位置(消火器一時置場)★³ へ向かう。	2番員は、1番員とともに 停止位置(消火器一時置場)★³ へ向かい、5階廊下設置(コース途中)の消火器を持参し、火点室入口へ向かう。	※拡声器は消防署で準備しますが、自己隊で用意したものも使用可能とします。
現場確認		1・2番員は、火点室入口手前の状況報告位置★ ⁴ 付近で停止し、火点室入口に表示されている白煙を確認後、「 5階更衣室、白煙確認 」と 2人で指差し 呼称し、消火器を置く。		※★ ¹⁶ 赤線(活動範囲ライン)以降を火点活動ゾーンとします。

実 施 項 目	指 揮 者	1 番 員	2 番 員	備 考
火災断定 消火器による初期消火 119 番通報	②1番員からの呼び出しに対し、「どうぞ」と応答する。 ④1番員の報告に対し、「了解、こちらで119番通報を実施する。どうぞ。」と呼称する。 電話機1★⁵で119番を押す。 「消防庁、火事ですか、救急ですか。」 「火事です。」 「消防車の向かう住所を教えてください。」 「港区〇町〇丁目〇番〇号の〇〇ビルです。」 （※自隊の建物住所と建物名を通報すること。） 「何階の何が燃えていますか。」 「5階の更衣室が燃えています。」 「逃げ遅れやけが人はいますか。」 「現在確認中です。」 「わかりました。消防隊ただちに向かいます。」 「お願いします。」 通報を終了し、受話器を置く。	①1番員は2番員に対し、「内部確認」と下命する。1番員は、「ドア開放」と呼称し、両手でゆっくり(約15cm)ドアを開放する。 ③2番員の「内部延焼中」の報告に「よし」と呼称し、速やかにドアを閉める。 1 1・2番員は正対し、1番員は2番員に対し「消火器で初期消火せよ。」と下命する。 ①無線で、「1番員から指揮者」と指揮者を呼び出す。 ③指揮者の応答後、「5階更衣室にて白煙確認、内部延焼中、これより初期消火にあたる。どうぞ。」と報告する。 ⑤指揮者の呼称に対し、「了解」と呼称する。 1 報告後、火点室入口(放水開始位置)★³に移動し、ドアノブを持ち、<u>ゆっくりと火点室入口ドア両手で開放し、「ドア開放</u>」と呼称する。 3 2番員の初期消火を火点室入口(放水開始位置)★⁷で監視する。	②1番員の下命に対し「よし」と呼称する。ドアが開いたら、2番員は内部を確認し、「内部延焼中」と報告する。 2 2番員は「よし」と呼称し、消火器の放射準備をする。 「安全ピンよし」、「ホースよし」、「準備よし」と動作し呼称する。 2 1番員の「ドア開放」の合図により、火点室入口(放水開始位置)★³で「放射」と呼称し、標的★⁸に向けて放射を開始する。 消火器を放射しながら、1.5m先の消火器進入位置★^{7a}まで内部進入し、「火事です。誰かいますか、避難してください。」と声をかけながら初期消火を実施する。 4 係員の「消火不能」の合図で、「消火不能」と復唱し、「退路確認、退路よし」と呼称し、退路を確認しながら退出し、すぐにドアを両手で閉鎖する。	※火点室内ドアは、「外開き」です。 ※火点室付近で活動する際は、姿勢を低くして対応する際も手や膝を床につかないでください。 ※ドア開放後は、係員がドアの保持を交代します。 ※消火器の放射は、係員が15秒計測後、「消火不能」と合図するまで放射し続けてください。また、消火器放射は、姿勢を低くし、火点に向け移動せず、ストレート注水としてください。 ※退路を確認しながら火点室から退出する際は、火点に背を向けないでください。 ※係員は、「消防庁、火事ですか？救急ですか？」から「わかりました。消防隊ただちに向かいます。」まで応答してください。 仮想防災センターの係員は、「はい防災センターです」、「了解」とそれぞれ応答してください。
状況報告 防災センター報告 避難誘導	①無線で「指揮者から1番員」と1番員を呼び出す。 ③1番員からの応答後、「状況報告せよ、どうぞ。」と下命する。 ⑤1番員の報告に対し、「了解。指揮者到着まで避難誘導を実施せよ。防災センター連絡後、指揮者も現場へ向かう。どうぞ。」と下命する。 電話機2★⁶で、仮想防災センターに「5階地区隊です。5階更衣室が延焼中です。119番通報完了。初期消火実施中です。」と連絡する。 防災センターに連絡後、拡声器を使用して在館者に対して避難誘導を実施する。 「自衛消防隊です。5階更衣室にて火災が発生しました。落ち着いて避難してください。エレベーターは使用しないでください。」 その後火点室入口★⁷方向に向かう	②(2番員を監視しながら)指揮者からの無線に対し、「どうぞ」と応答する。 ④無線で指揮者の「状況報告せよ、どうぞ。」に対し、「5階更衣室延焼中、2番員は消火器にて初期消火を実施、消火不能どうぞ。」と報告する。 ⑥指揮者の下命に対して「了解」と呼称する。 1 状況報告位置★⁴で2番員と正対し、「状況報告せよ」と下命する。 3 2番員の報告に対し、「了解、これより避難誘導にあたる。」と下命する。 指揮者到着まで、避難誘導をその場で実施する。「火事です。避難してください。エレベーターは使用しないでください。」	2 退出後、状況報告位置★⁴で1番員と正対し、1番員の「状況報告せよ」で「消火器による消火不能。逃げ遅れ・けが人なし。」と報告する。 4 1番員の下命に対して「了解」と呼称する。 指揮者到着まで、避難誘導をその場で実施する。「火事です。避難してください。エレベーターは使用しないでください。」	
指揮者到着 状況報告	挙手した状態で「指揮者到着」と呼称しながら、状況報告位置★⁴に移動する。 ①1・2番員に対し、「状況報告」と下命する。 ③1番員の報告に対し、「了解」と呼称する。	「指揮者到着」を聞いたら、状況報告位置★⁴に向かい指揮者と正対する。 ②指揮者の「状況報告。」に対し、「消火器による消火不能。逃げ遅れ・けが人なし。5階避難誘導完了。」と報告する。	「指揮者到着」を聞いたら、1番員とともに状況報告位置★⁴に向かい指揮者と正対する。	

実 施 項 目	指 揮 者	1 番 員	2 番 員	備 考
屋 内 消 火 栓 の 操 作				
操作開始	1 状況報告位置★⁴で1・2番員に対し「ただいまから屋内消火栓に移行する。操作始め。」と下命し、屋内消火栓の監視位置★¹⁰に向かって走る。 監視位置★¹⁰で1・2番員の操作状況を基本の姿勢で監視する。 (※監視位置は、ホース延長に支障のない任意の位置とするが、屋内消火栓から概ね2.5mの位置とする。)	2 指揮者の下命に対し、「よし」と呼称し、屋内消火栓★⁹に向かって走る。		※指揮者の「～操作はじめ」の「め」から消火栓タイムを測定開始します。
消火栓の起動、ホース取り出し		②2番員が消火栓扉開放後、ホースの4折を残し、「ホース取り出し」と呼称し、筒先とホースを取り出し、筒先が下になるように右脇に抱え「よし」と呼称する。	①消火栓の前に到着後、起動ボタンを押し、「起動ボタンよし。扉開放。」と呼称し、消火栓扉を開放する。 ③1番員のホースの取出しを待って残りのホースを取り出し投げ、ホースの内側に入り余裕ホースを腰に取り、1番員の「よし」の呼称に確保姿勢をとり、「確保よし」と呼称する。	
ホース延長	1番員がホースを抱え、2番員の「確保よし」の呼称を確認後、火点室入口(放水開始位置)★³の手前の位置へ先行する。	1 2番員の「確保よし」の応答で「ホース延長」と呼称し、火点室にホースを延長する。	2 ホースの確保姿勢を継続し、1番員の「放水はじめ」まで確保姿勢を維持する。	※結合部は必ず1番員が持ってください。
放水開始 ホース点検	①火点室入口(放水開始位置)★⁷の手前の停止位置★³で、1番員に対し「止まれ」と停止位置を指し示す。1番員が筒先を構えたら、「放水はじめ」と下命する。 ⑤筒先まで水が載ったのを確認し、火点室入口のドアノブを両手に取り、「ドア開放」と呼称しながらゆっくりとドアを開放し、ドアを保持する。 ⑦火点室に放水が開始されたことを確認し、1番員の操作状況を監視する。	②火点室入口(放水開始位置)★³の手前で、指揮者の示す位置で停止し、余裕ホースをとり、筒先を構えて、指揮者の「放水はじめ」で2番員に対し「放水はじめ」と呼称し右手を垂直に挙げる。 ④2番員の「放水はじめ」を聞いたら、★⁷に移動する。 ⑥放水が開始されたら、指揮者が「ドア開放」後、屋内消火栓標的(大)★¹²に放水し標的を倒す。	③1番員の「放水はじめ」で確保姿勢を解除し、右手を垂直にあげて「放水はじめ」と復唱した後、「バルブ開放」と呼称、開閉バルブを全開し、「バルブ全開よし」と指差し呼称する。 バルブ全開後、延長ホースを点検しながら前進し、結合部の前で停止し、「ホース・結合部よし」と指差し呼称をする。 ※点検時にホース、結合部に漏水がある場合は、「漏水あり」と右手又は左手で指差し呼称する。(漏水の対応は不要)	係員は、漏水を発見したら、漏水バンドを巻くなど、処置を実施してください。
放水と放水補助	標的が倒れ2番員が確保し、1・2番員が室内に進入したら、指揮者は室内の適宜安全な位置に移動して操作を監視する(監視位置への到着)。	2. 標的が倒れ、2番員がホースを確保して「確保よし」と呼称したら、「進入」と呼称し、すり足で火点室内の屋内消火栓進入位置★¹¹まで進入する。	1. 1番員の放水操作のホース補助をし、「確保よし」と呼称する。 3. 1番員の「進入」で火点室内に「進入」と呼称し進入する。	※消火栓の標的が倒れた時点で、消火栓タイムの測定終了。 ※2番員ホース補助姿勢:延長ホースの右側(1番員の右足後方1歩:約 0.7m)の位置で右足を前、左足を一步後方に置き、ホースを持ち上げ、左腰に添えたまま前傾姿勢をとる。
放水停止	係員の「放水止め」の指示で、1・2番員側に向きを変え「消火栓放水止め」と下命する。	指揮者の「消火栓放水止め」の号令に対し、1・2番員は「消火栓放水止め」と呼称する。		※指揮者が監視位置に到着後、係員が「放水止め」と呼称します。
本部隊への報告 残水処理	放水停止の下命後、駆け付けた本部隊(係員)の「本部隊到着」の呼称を聞いたら、火点室から退出し、本部隊(係員)に正対し、本部隊の「状況報告せよ」に対し、「5階更衣室から出火、消火器による消火不能、屋内消火栓により消火完了、逃げ遅れ・けが人なし。」と報告する。 ※指揮者は本部隊への報告後、その場で待機し、係員の次の指示を待つ。	「消火栓放水止め」の呼称後、筒先バルブを閉鎖する。 放水が停止し、2番員の「消火栓よし」を受けて「よし」と呼称する。 筒先の残水を排水した後、筒先の先端を右手で持ち、左足を引きつけ、気をつけの姿勢で次の指示を待つ。	ホースの確保を解き、延長ホースに注意しながら屋内消火栓★⁹に戻り、開閉バルブを両手で閉鎖し「バルブ閉鎖」と呼称、バルブ閉鎖後「バルブ閉鎖よし」と指差し呼称をする。 その場で火点方向を向いて基本の姿勢をとり「消火栓よし」と呼称する。	指揮者の放水停止の下命後、本部隊(係員)は、指揮者に「本部隊到着」の呼称後、「状況報告せよ」、指揮者の報告後「了解」とそれぞれ呼称します。 ※2番員の「消火栓よし」の呼称で、係員が消火栓ボックス内のホース結合を離脱します。 ※指揮者が本部隊に報告後、全体タイムの測定が終了します。 次の隊は、係員の合図で使用するホースを消火栓ボックスに設定してください。 ※起動ボタンは係員が戻します。
収 納	係員の「収め」の合図で、「消火栓収め」と1・2番員に下命する。 その後1番員と駆け足で、終了報告の指揮者終了位置★¹⁴に移動する。	指揮者の「消火栓収め」の下命で、「よし」と呼称し、筒先をその場に置き、回れ右をして指揮者と駆け足で隊員終了位置★¹³に移動する。	指揮者の「消火栓収め」の下命で、「よし」と呼称し、消火栓の位置から隊員終了位置★¹³に移動する	※1番員の筒先内残水処理後、基本の姿勢をとったら、係員が「収め」と合図します。

実 施 項 目	指 揮 者	1 番 員	2 番 員	備 考
点 検 報 告 ・ 活 動 報 告				
点検報告	隊員が整列した時点で「 点検報告 」と下命する。 1・2番員からの異常の有無の報告にそれぞれ「 よし 」と答える。	隊員終了位置に整列後、指揮者の「点検報告」の号令により指揮者に対し「 1番員異常なし 」と報告する。	隊員終了位置に整列後、1番員の報告に続いて、「 2番員異常なし 」と報告する。 ※ホースからの漏水があった場合は、「 漏水あり 」と報告する。	※点検報告時の小角度の方向変換については任意とします。
防火管理者への活動報告	1・2番員からの点検報告後、指揮者は回れ右をして防火管理者★ ¹⁵ に向き直り、挙手敬礼後、「 5階更衣室より出火、消火器による消火不能、屋内消火栓により消火完了、逃げ遅れ・けが人なし。 」と報告し、挙手敬礼を行う。	1・2 番員は、そのままの位置で待機する。		※防火管理者は、指揮者と隊員が終了位置(★13,14)に戻った時点で、コース外直近から防火管理者位置★15 に移動し、指揮者の挙手敬礼に対し答礼し、活動報告を受けること。 ※防火管理者はヘルメットを着装すること。
退 場	防火管理者の答礼後、回れ右をして隊員側に向き「 わかれ 」と号令する。 1・2番員の敬礼に 答礼 し、駆け足でコース外に退場する。	指揮者の「わかれ」の号令で 挙手敬礼 し、駆け足でコース外に退場する。		※防火管理者が不在の場合は、訓練指導者等が代行すること。
				※指揮者の答礼までの行動を審査とします。
資器材返却・撤収	※コース外に退場する前に、速やかにビブス、トランシーバーを係員に返却してください。 ※プラカードは、閉会式終了後、お帰りの際にお返しいただきますので、退場後も各隊で管理してください。			